

2025年度 大谷大学生チャレンジ企画 地域に寄りそうプロジェクト 実施報告



プロジェクト



親子で楽しむバスボム作り
—広がる香りと地域の輪—



モビロゲを活用した
地域の魅力発見ロゲイニング



「GOEN食堂」を通じたコミュニティ形成
～大谷大学を地域の中心に～



「珈琲の街、北大路」の魅力を広めよう



大谷大学地域連携室

親子で楽しむバスボム作り

—広がる香りと地域の輪—

活動エリア：大谷大学、大宮交通公園

代表者所属：
教育学部教育学科幼児教育コース

活動概要

- ①親子との時間を増やして楽しい時間を共有する。
近年、親と子どもが関わる時間が減少している。それによって会話が減り、一緒にいる時間も減るから、その時間を作ることで地域連携ができる。
- ②妊婦さんが抱える子育ての不安を軽減する場を作る。
産後の生活や育児のことなどの体験談を、育児経験のあるママさんから聞くことで、不安や悩みを共有し安心感を得られるようにする。そのことから、産後の生活を具体的にイメージできるようにすることで、心の準備がしやすくなり、産後鬱の軽減につながる。
- ③外遊びやイベントのマンネリ化解消



活動記録

- 9月24日(水) 幼児教育コース地域連携プロジェクト「LINDEN」でバスボム作りを実施（3組の親子が参加）
- 11月 9日(日) 大谷大学学園祭「紫明祭」でバスボム作り実施（3名の小学生が参加）
- 11月22日(土) 大宮交通公園でバスボム作りを実施（21名の親子が参加）
- 12月 7日(日) 大谷大学でバスボム作りを開催（41名の親子が参加）



学生の声

まず私たちが掲げていた地域への貢献に関して、地域の親子がたくさん参加していただいたことで、親子の関わり合いの時間を作ることができました。バスボムという物作りの体験を通して、色の配合を相談し合ったり、子どもの作った作品を褒めたり、楽しい雰囲気になりました。しかし、同じ机であっても各々の家族がバスボム作りを楽しみ、かつ時間設定もタイトにしすぎたため、保護者同士で交流してもらうことができませんでした。もっと話しやすい環境を作ることが大切だったのかもしれない。

この経験から私たちは、相手にわかりやすく伝えることの大切さを学びました。事前準備の段階では、作り方を簡略化することで家庭でも作れるように工夫し、ご予約してくださったかたへのメールでの伝え方を学びました。当日は子どもの目線で話しかけ、チームの間で今どうなっているのか声を掛け合うことで、スムーズに進められる重要さを知りました。

モビロゲを活用した 地域の魅力発見ロゲイニング

活動エリア：北大路エリア

代表者所属：
社会学部コミュニティデザイン学科

活動概要

誰もが気軽に参加できる「ゲーム」を通じて大学生と地域住民の交流、健康増進、地域の魅力再発見等を目指す活動を行う。これまではコミュニティデザイン学科内のみで実施してきた「北大路ロゲイニング」に、大学周辺の地域の方々や他学部の学生にも参加してもらい、さまざまな世代間での交流を創出する。

本プロジェクトの最大の目的は、ロゲイニングを通じて北大路周辺のまちの魅力を再発見してもらうことである。地域住民や大学生がまちに繰り出すことで、これまで訪れることのなかったお店や施設を知ることができる。さらに、参加者同士や参加者と店員など、新たな交流を創出することをねらいとしている。参加者は、身近な地域で楽しく活動することができ、さらには、外を歩くことによる外出機会の創出、健康増進にも結びつく。



※ロゲイニングとは、エリア内に多数設置されたチェックポイントをチームで制限時間内にできるだけ多くまわり、稼いだ点数を競い合うというオーストラリア発祥のスポーツ。

活動記録

- 7月18日(●) 学内向けプレ企画 第1回目
- 7月22日(●) 学内向けプレ企画 第2回目
- 8月 2日(●) オープンキャンパス「大谷大学夏まつり」で学内ロゲイニングを出展
- 11月 1日(●) フナオカスタンダードでのでのPR (チラシ配布・紫野ブースでの駄菓子・焼き芋販売)
- 11月 8日(●) 大谷大学学園祭「紫明祭」で学内ロゲイニングを出展
- 11月28日(●) 地域食堂TAMARIBA (子ども食堂) でのPR (チラシ配布)
- 12月 9日(●) RADIO MIX KYOTO「大谷大学ハッピーアワー！」出演
- 12月20日(●) 北大路ロゲイニングイベント (本企画) 開催



学生の声

〇メンバー①

活動当初、大学内で始まったこの北大路口ゲイニングがいつの間にか、大学を超えて地域の皆様と一緒に活動させていただくまでになったこと、未だに信じられない気持ちでいます。

7月にはプレ企画を2回開催し、学生に体験してもらいました。以降の活動に向け、よかった点や課題の発見に努めました。

夏のオープンキャンパスや学園祭にはブースを出展し、学生をはじめ地域の方々にもロゲイニングを体験していただきました。

11月は大学を超えて、特別養護老人ホーム紫野さんやTAMARIBA カフェふらっと＋ベジさんの活動に、お手伝いで参加させていただきました。活動を通して、地域のお店や企業の方々、住民の皆様には北大路口ゲイニングの取り組みを知っていただくことにつながりました。12月の活動にも大変ご協力いただき、深く感謝申し上げます。

そして昨年度末、紫野さんのご協力のもと、北大路口ゲイニングを無事開催することができました。当日は20名程の方にご参加いただき、ゲームを通して地域の魅力の再発見を体験していただきました。実施後のアンケートでは、多くの温かい声をいただき、大変嬉しい限りです。来年度も是非、地域の皆様のご協力のもと、私たちの北大路口ゲイニングの活動を継続していければと考えております。



〇メンバー②

この1年間を通して、ちいプロの活動に携われ、大学のPJ、ゼミ以外でも周辺地域に関わる機会があり、非常に楽しい経験となりました。

ロゲイニングというツールを使って、大学、大学周辺を盛り上げる取り組みになったかなと自己評価できます。ありがとうございました。



〇メンバー③

活動を進めていく中で、グループ内での役割分担や集客といった難しさを感じることもありましたが、最後の12/20の本企画は盛況のうちに終わることができ、1年間精力的に活動できて良かったと思っています。

ちいプロ採択時の活動計画書において本活動の主軸としていた「地域の魅力の再発見や地域活性化に寄与すること」と「多様な世代間での交流を創出すること」については、イベント当日の様子や参加者アンケートの結果を振り返ってみて、おおむね達成できたものと考えています。

また、単にロゲイニングイベントを企画・運営するだけでなく、地域のイベントや子ども食堂等でも活動させていただくことができ、大変貴重な経験をすることができました。

今回のちいプロ活動でいただいたたくさんのご縁をこれからも大切にしながら、次年度以降の活動に引き継げるように努めていきたいと思っています。

「GOEN食堂」を通じたコミュニティ形成 ～大谷大学を地域の中心に～

グループ名 GOEN食堂

代表者所属 文学部真宗学科

活動エリア 大谷大学

活動概要

本活動は地域のコミュニティ形成というテーマに関して、地域の方々が本活動を通して新たなコミュニティを形成することを目的とし、コミュニティ食堂を実施するものである。

※コミュニティ食堂とは、老若男女問わず集まって食事やイベントをすることで、新たな出遇いやつながりをつくることのできる場と定義している。



活動記録

- 8月 9日(土) 北大路商店街内「アップルサン」で開催 (10名参加)
- 8月23日(土) 大谷大学学生食堂で実施 (11名参加)
- 9月14日(日) 大谷大学学生食堂で実施 (9名参加)
- 9月27日(土) 大谷大学学生食堂で実施 (14名参加)
- 10月12日(日) 北山杉の里マルシェさんとのコラボイベント (3名参加)
- 10月26日(日) 大谷大学学生食堂でハロウィンイベントを実施 (31名参加)
- 11月 8日(土)～11月9日(日) 本学学園祭「紫明祭」で出展
- 11月23日(日) 大谷大学学生食堂で実施 (4名参加)
- 12月 7日(日) 大谷大学学生食堂で実施 (49名参加)
- 12月21日(日) 大谷大学学生食堂でクリスマスイベントを実施 (20名参加)



学生の声

我々の活動は「地域の方々が自らの住む地域に愛着を持つ」ということが成果であるとしている。この成果を確認する方法としてGOEN食堂では、会の最後にアンケートを来場者の方々に記入していただいている。その中には「息子に大谷大学に行くよと言うと非常に喜びます。」「大谷大学に行くのが楽しみです。」「いつも助かってます。ありがとうございます。これからも続けてください。」などのお声をいただいている。しかし、まだまだ少数派である。多くの来場者の方々が満足して帰られるが、それが地域への愛着かと問われるとまだその段階ではないと考えられる。なので、今回の活動成果としてはC評価とさせていただきます。今年度から開催告知に北大路商店街様のアーケード下にポスターをつらせていただいたり、各店舗様にチラシを配架していただいたり、地域との一体感を強めたつもりであったが、まだまだ伝わっていないようであった。だが、これからも地道に続けていきたい。

「珈琲の街、北大路」の魅力を広めよう

グループ名 大谷大学珈琲研究会

代表者所属 文学部哲学科

活動エリア 北大路エリア、京都府立清明高校

活動概要

北大路通に面するいくつかの珈琲店と連携して、店舗ごとに異なるオリジナルグッズを頒布することで、北大路通にある珈琲店とその数の多さ、それぞれのお店の個性を知るきっかけを作り珈琲の街としての北大路を打ち出した。

また、清明高校学校祭「つばめ祭」において、生徒のカフェ出店への協力も行った。



活動記録

- 8～9月 紫明祭などで地域の珈琲店を紹介するための小冊子「かふえまっぷ」の取材を開始。北大路焙煎室、LAUGHTER KAMOGAWASTAND、C'S PAW、伊藤珈琲の4店舗を掲載。
- 11月1日（土） 清明高校の学祭でカフェ出店に協力。事前に数度の打ち合わせやレクチャーを行い、学祭当日は部員二名が参加。あくまで補助にまわり、高校生徒の自主性を重視した。三時間で計145杯のホットコーヒーを提供した。
- 11～12月 計画の再編を行い、現在の形に計画を変更。また、北大路通に面するお店それぞれに企画の説明を行い、協力の依頼を行った。その結果、LAUGHTER KAMOGAWASTAND、C'S PAW、伊藤珈琲、けやきCAFEの4店舗と連携し、オリジナルグッズの頒布が決定した。また、他店舗でも広告チラシの設置などの協力を得ることができた。
- 12月23日（火）～1月31日（土） 企画開始。ビラ配りやSNSなどでも宣伝を行った。コースターの頒布は1月末日まで開催。



学生の声

まず、計画が当初のものと大きく変更されている。これはサークル内での連携がうまくいかなかったことと、日程管理に問題があった。地域の珈琲店に協力を依頼する以上、期間にはゆとりをもって行動すべきだった。想定以上に時間がかかることも考慮すべきだった。

しかし、限られた期間のなかで珈琲の街としての北大路を打ち出すための方法としては妥当だった。店舗へ企画を説明してコースターを設置した際に、むしろ嬉しい、ぜひとも協力させてほしいと返事をいただくこともあった。特にけやきCAFEさんからはデザインを直接いただいてコースターを作成した際には大変喜んでいただけた。常連さんからはもちろん、初めて来た方にも好評いただけたらしく、けやきCAFEさんのSNSもより見ていただけるようになったそう。

チラシは600部印刷し、500部程度店置きさせていただいたほか、直接配布したが、確認したところ報告書作成時でも300部程度ははけており、想像していたよりも多くの人の手に渡ったことが予想される。また、SNSで宣伝した効果も大きく、県外からこの企画のために来た方もいた。愛知県から訪れてくれた方に話を伺ったところ、「とても有意義な時間で素敵な店舗に訪れることができた。近所に同じ店舗があればいいのに。」と話してくれた。また、加えて自身の友人と家族に共有した結果その方の友人が同じ店舗にわざわざ来てくれたという話も伺うことができた。



これらの結果から、北大路には素敵な珈琲店がいくつもあることを宣伝することにはある程度成功したと言えるのではないかな。ただ、店舗にコースターの在庫がどれほどあるか確認したところ、ほとんどの店舗は半分以上残っていた（最初に配布した数は各店舗60枚ほど）。

計画を各店舗に説明した際に、ある店舗からは企画に対して「惜しい」という言葉をいただいた。計画の変更と残り期間の短さのために配布するコースターのデザインはこちらであらかじめ用意することになっていたため、もっと店舗に寄り添ったデザインにするべきとの助言だった。やはり各店舗にもブランディングがあり、できるならばより早くからヒアリングを行うべきだった。

結果として、珈琲の街としての北大路を知ってもらうことに対しては多少効果があったとはいえ課題が多く残る結果となった。計画立案と日程管理をうまく行えば、協力していただける店舗も増え、より珈琲の街としての北大路を広めることができただろう。

また、その傍ら清明高校の学祭で生徒のCAFÉ出店の協力を行った。淹れ方などのレクチャーや器具の貸し出しを行った。学祭当日はあくまで補助がメインで主に生徒の主体性に委ねたところ、参加した生徒がそれぞれの役割をしっかりとこなし、多くの珈琲を売り上げることができ、地域の方やほかの生徒からも大変好評だった。生徒の中には普段珈琲を飲まない方もいたが、活動を通して珈琲を飲むことと入れることを楽しむことができたようだった。学祭を通して珈琲研究会自体の活動にも興味を持てただけで地域の方もおり、交流を楽しむこともできた。

